

# 女性の知恵を地域の力に

(西予市の取り組み)

地域おこし協力隊という選択

北海道から横浜の大学へ進学後、自分の目で色々な世界を見てみたタイへ1年間留学し、帰国後は旅行会社で国際交流を目的とした海外ボランティア・スタディーツアーに携わってきました。多くの学生を海外へ引率していく中で、海外に目を向ける前に自分の足元にある日本、そしてその中でも地方に関わりたと思うようになりました。まずは地方の実態を知りたいという想いから、決まった活動ではなく自分の目で見て課題を見つけていくという活動内容に惹かれ地域おこし協力隊へ応募しました。

女性から広がる地域の和を目指して

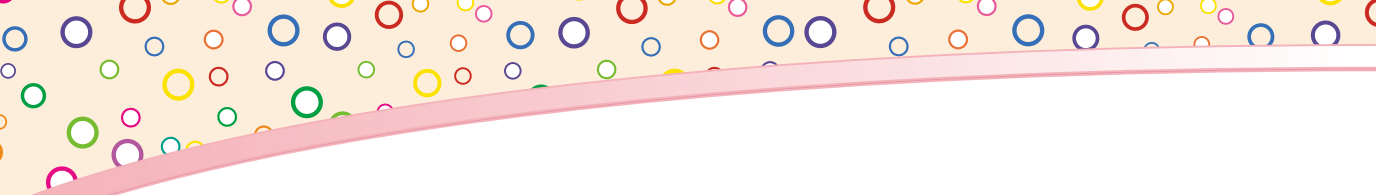
私が活動させていただいている惣川という集落は現在、人口500人を切り高齢化率は64.5%のいわゆる「限界集落」と言われる地域です。20年以上前から「地域おこし」としてあらゆる地域活性化事業が取り組まれている地域でした。



応援隊通信 14号



せいよ集落応援隊  
増井 桃子



私はまず、その集落に住んでいる住民一人ひとりの意識がどこにあるのか、一緒に寄り添い、歩みながら取り組んでいける方法を模索したいと考えていました。実際に集落に入ってみると、日々の生活の中で、常に女性は小さな欲求を抱えているということがわかりました。この集落では、直売所へ野菜を出荷している中高齢層の女性が多いのですが、出荷している野菜が売れ残ると、大体の人は値段を下げるか出す量を減らすようになります。そこへ、この悪循環から脱するべく、野菜に付加価値を付けるようラベルを貼ることを提案し、作って貼ってみてもらいました。その後、「見た



女子会で開催した昔ながらのコンニャク作り伝承会の様子



目が良い」とか「ラベルがある」と手に取りやすくなる」と反応があったことを伝えると出荷者は「やっぱりなんでもラベルを貼らないとね」と自信をつけ、ほとんどの野菜にラベルを貼

の皆さんの協力の下、毎月集落内に全戸配布している応援隊通信を利用して色々な会をこれまでに企画・開催してきました。昔ながらのこんにやく作り・山にあるもののリース作り、帽子や枕作りなど女性の手しごとをメインにした会や、新年会というお食事会、おひな祭りの茶話会など、女性同士の交流会もしてみました。現在は、ここで生まれた想いが会や参加者だけにどまってしまうことのないよう、女子会以外でも想いや情報を共有していくことを心掛け、作った物はお土産として販売したり、それが徐々に広がり和となる環境・土台づくりを大切にしながら活動をしています。

### 3年目の課題

活動が1年を過ぎたころから、徐々に集落の方からあれしてみたいこれしてみたいという声が聞こえるようになりました。地域づくりは決して一人ではできません。いいことも悪いことも共有し、話し合い、共に前進していける仲間がいないと心が折れそうになります。幸いにも正面から意見をぶつけてくださる方、応援して下さる方、一緒に協力しあえる仲間が集落にいます。みんなの想いはそれぞれですが、一人ひとりの「想い」からコトが始まり、持続していけるよう、市内に配属されている他地区の協力隊とも協力し合い、任期終了後も見据えて経済活動へと発展・繋がる仕組み作りをしていくことが3年目の課題となります。

活動が1年を過ぎたころから、徐々に集落の方からあれしてみたいこれしてみたいという声が聞こえるようになりました。地域づくりは決して一人ではできません。いいことも悪いことも共有し、話し合い、共に前進していける仲間がいないと心が折れそうになります。幸いにも正面から意見をぶつけてくださる方、応援して下さる方、一緒に協力しあえる仲間が集落にいます。みんなの想いはそれぞれですが、一人ひとりの「想い」からコトが始まり、持続していけるよう、市内に配属されている他地区の協力隊とも協力し合い、任期終了後も見据えて経済活動へと発展・繋がる仕組み作りをしていくことが3年目の課題となります。

## 特集

地域活性化への新しい風 ―地域おこし協力隊―